

平成29年11月30日
(2017年)

保護者の皆さまへ

吹田市立津雲台小学校
校長 瀬崎 浩美

平成29年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成29年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

- ◎国語A（『知識』に関する問題）・・・全国値を上回り良好である。
- ◎国語B（『知識の活用』に関する問題）・・・全国値を上回り良好である。

今回の学力調査の結果は、国語Aは3つの問題で、また国語Bは2つの問題で、全国平均正答率（全国値）をやや下回る結果でした。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと、聞くこと

目的や意図に応じて話の構成や内容を工夫し、適切な言葉使いで答えることは、正答率も高く全国値を上回りました。しかし、話の構成を工夫するのに必要なスピーチメモを作ることの良さを捉える問題は、全国値をやや下回り課題が見られました。

書くこと

目的や意図に応じて文章全体の構成を考え引用して書くことは、正答率も高く全国値を上回りました。しかし、手紙の構成を理解し後付けを書くことは、全国値をやや下回り課題が見られました。

読むこと

物語の登場人物の心情や場面の描写を捉える問題は、全国値を上回りました。しかし、複数の叙述を基にして発言の意図を捉える問題は、全国値をやや下回り、課題が見られました。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことは、正答率も高く全国値を上回りましたが、漢字を書くことは、全国値を上回っているものの課題が見られました。また、俳句の情景を捉えることについては、全国値を下回り課題が見られました。

☆国語科における成果と今後の改善点について

ほとんどの問題で、全国値を上回り良好な結果でした。難しい問題でも意欲を持って粘り強く取り組む姿勢が、無解答率の低さに表れています。

ただ、最後の問題で無解答率が高かったので、時間内に大まかに文章を読みとることに課題があるのではと考えられます。また、2つの条件を読み取って記述する問題では、1つは条件を満たして記述することができていることから、問われていることをしっかりおさえることに課題があると考えられます。

今後は課題となる以下の点について取り組みを進めます。

- ・物語を中心とした読書以外に、コラムや新聞といった様々なジャンルの文章を読む機会を持たせていく。
- ・手紙の書き方について学習した学年以降でも、体験学習等を通してお礼の手紙を書く機会を設けるなど、工夫する。
- ・文章の構成に目を向け、要点や作者の言いたいこと等の内容の要約やあらすじを書く学習を増やす。
- ・日常の学校生活の中で、発表原稿を作成し話の構成や内容など工夫し、人に伝える学習の機会を増やす。
- ・問題に正対できるように、日常の場面で問われていることが理解できたかを聞き取って確認する場面を増やす。

●算数《概要》

- ◎算数A（『知識』に関する問題）・・・全国値を上回り良好である。
- ◎算数B（『活用』に関する問題）・・・全国値を上回り良好である。

今回の学力調査の結果は、算数A・算数Bの各領域とも全国値を上回りたいへん良好な結果でした。

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算

すべての問題で全国値を上回り、特に、商を分数で表すことについては、全国値を上回りました。しかし、計算だけに頼り、示された方法を問題場面に適用して答える問題や加法と乗法の混合計算などは、全国値を上回っているものの正答率が高いとは言えず、課題が見られました。

量と測定

すべての問題で全国値を上回り、特に、飛び離れた数値を除いた場合の平均の求め方の問題はよくできていました。しかし、仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を説明する記述式の問題は、全国値を上回っているものの課題が見られました。

図形

すべての問題で全国値を上回っていました。図形の構成や面の位置関係については、正答率も高くよくできていました。しかし、高さが等しい平行四辺形と三角形について底辺と面積の関係を理解することに課題が見られます。

数量関係

すべての問題で全国値を上回りましたが、記述式の問題では無解答率が高かったです。特に、グラフや表の情報を読み取り、それを根拠に理由を記述する問題や、基準値と割合を基に比較量を判断した理由を説明する問題は、正答率が低く課題が見られました。

☆算数科における成果と今後の改善点について

全体的には、全国値を上回り良好な結果でした。しかし、問題を最後まで正確に読むことができていないため、題意に沿った答え方ができていないことや、絵や図に表す習慣がついていないため、わかっている情報を書き込むことができていないなどの課題が見られました。

今後は課題となる以下の点について取り組みを進めます。

- ・必要な情報を読み取る力をつけるため、問題を絵や図に表す方法を習慣づけたり問題を読んで大切な言葉に印をつけるなどを取り入れた学習を行う。
- ・委員会や学級会などで、算数の題材を取りあげ、学習が身近なものとなる機会を取り入れ、学習したことを生活に生かせるようにする。
- ・記述式の解答に抵抗をなくすために、授業の中で自分の考えを書いたり発表したりする機会を今後も多く取り入れる。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境・自分自身について】 *「どちらかといえば当てはまる」を含む

- ・ほとんどの児童が「朝食を食べています」が、「起床時間は決まっているが、就寝時間は決まっていない」児童が、比較的多いです。
- ・「土曜日は家族と過ごす」「家の人は学校行事に来る」「家の人と学校の出来事について話す」と答えた児童は、全国値を上回っています。
- ・テレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを含む）は、「2 時間以内」と答えた児童は、全国値を上回っており、概ね時間を決めて遊んでいます。また「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と答えた児童は、全国値とほぼ同じです。
- ・学校の「宿題はする」は全国値を上回っていますが、「復習・予習をする」と答えた児童は、全国値をやや下回り、自分から学習しようという児童は少ないです。
- ・「新聞を読んでいる」「外国の事をもっと知りたい」と答えた児童は、全国値を上回り、社会の出来事について興味を持っている児童が多いです。
- ・「地域の行事に参加」「ボランティアへの参加」は、全国値を下回っていますが、「人の役に立ちたい」と思っている児童は多いです。
- ・「人が困っているときは助ける」「いじめはどんな理由があってもいけない」という質問に「当てはまらない」と答えた児童はいませんでした。
- ・「失敗を恐れずに挑戦」「物事を最後までやりとげて嬉しかった」は、全国値を上回り、

あきらめず何事にも取り組む児童が多いです。

- ・「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標がある」と答えた児童は、全国値をやや下回り、自信のなさや将来への不安を感じる児童もいます。

【教科・学習・学校生活について】

- ・「友だちと会うのは楽しい」「みんなで協力して何かをやり遂げて嬉しかった」と答えた児童が多い一方で、「学校のきまりを守る」「友人との約束を守る」と答えた児童は全国値を下回っており、マナーやルールを守る意識が低いです。
- ・5 年生までに受けた授業について「課題に対して自ら考え、自分から取り組んだ」「ねらいやめあてをノートに書き、振りかえりをよくした」と答えた児童は、全国値を上回っており、前向きに授業に取り組んでいます。
- ・国語では、「授業の内容はよくわかる」と答えた児童は多いですが、全国値をやや下回っています。
- ・算数では、「新しい問題に出合ったときに解いてみたいと思う」「もっと簡単に解ける方法を考えたり、そのわけを理解するようにしている」と答えた児童は、全国値を上回っており、興味や意欲を持って問題に取り組んでいます。

3 今後の取り組み

今回の全国学力・学習状況調査につきましては、全体的に全国値を上回る結果となり、日頃の子どもたちの学習への姿勢が反映されたものとなりました。これも、保護者の皆様が日々支援し、励ましてくださったおかげと思います。今後はこれまでの取り組みを検証すると共に、課題となった点についての取り組みを充実させていきます。

特に、学習面においては、「伝えたい」内容を整理して「積極的に意見交流を行う場面を増やした授業」や体験授業等で学んだことを「発表したり表現できる機会を増やす」など、「伝え合う力の育成」に取り組んでいきます。また、子どもたちが学習した内容を実生活に結びつけられるような授業やわかりやすい授業等を目指すとともに、授業やテストで理解できなかったところを粘り強く指導していきます。

生活環境や学習環境等に関する調査結果では、今年度も家庭教育力が高く、児童にとって恵まれた環境にいることがわかりました。人の役に立ちたい、困っている人を助けたい、いじめは絶対だめ、と思っている児童が多い反面、自分の良さや将来の目標に不安を感じる児童もいます。そこで、自分自身に自信を持ち、行動することができるように、活躍できる場や人に認められる場を設定し、自己肯定感や達成感を高める取り組みも必要だと考えます。以前より古中ブロックで研究授業を行い、指導方法等の取り組みをしております道徳教育を通して、ルールを守り、マナーを大切にする態度の育成に努めて参ります。また、保護者の方からご寄付いただいたたくさんの本を活用し、さらに読書活動や学校図書館教育の充実などにも努めていきたいと思ひます。

学校・家庭・地域との連携をさらに深めて参りますとともに、子どもたちが、どんな状況にも対応できるよう思考力・判断力・表現力の育成ができますよう、今後とも学校の取り組みにご理解ご協力をよろしくお願ひいたします。